

都道府県名

岡山県

I 学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	哲多町立本郷小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	1	7	12
児童数	28	12	24	29	22	23	3	141	

II 研究の概要

1. 研究主題

一人一人が学ぶ楽しさを知り、学ぶ力を身につけた児童の育成
～ 算数科の学習を中心として ～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

全学年・算数（各学年とも習熟度に差があり、個に応じたきめ細かな指導が必要とされるため）

(2) 年次ごとの計画

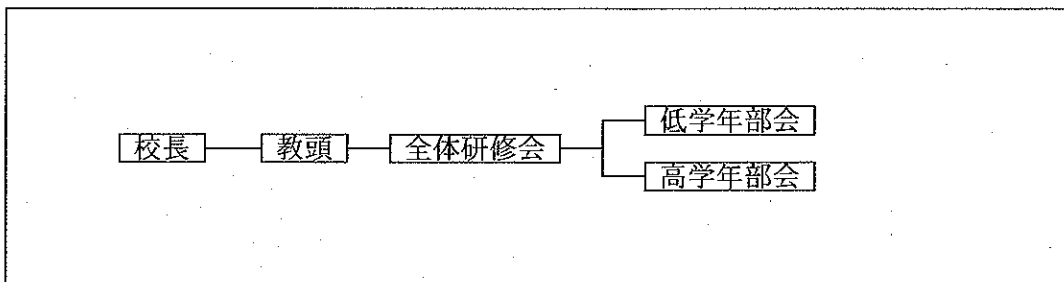
平成 14 年度	<ul style="list-style-type: none"> ○ テーマ 一人一人が学ぶ楽しさを知り、学ぶ力を身につけた児童の育成 ～ 算数科の学習を中心として ～ ○ 研究の見通し（仮説） <ul style="list-style-type: none"> ① 日常活動における読み・書き・計算の能力を育成することは、算数科における学力の向上を支えるのではないか。 ② 個に応じた指導や学習内容に応じた場を工夫することで、きめ細かな指導を行うことができ、学力の向上を図ることができるのではないか。 ③ 個に応じた算数科の授業の構成と指導を工夫することで、確かな学力を身に付けさせることができるのではないか。 ○ 研究の内容・方法 <ul style="list-style-type: none"> ① ○朝学習（計算練習、読書等） ○課外学習として「わくわくタイム」を設定（興味・関心、習熟度に応じたプリント学習や読書） ② ○習熟度別学習 ○少人数指導 ③ ○問題解決的学習 ○導入時における課題把握のための教材開発
----------------	---

平成 15 年度	<ul style="list-style-type: none"> ○ テーマ 一人一人が学ぶ楽しさを知り、学ぶ力を身につけた児童の育成 ～ 算数科の学習を中心として ～ ○ 研究の見通し <ul style="list-style-type: none"> ① 個に応じた確かな学力を身に付けさせる授業の構成と指導の工夫を行うことで、「わかる」ことが実感できる授業が創造できるのではないか。 ② 日常活動における読み・書き・計算の能力を身に付けさせるプログラムを創造実践することで、確かな基礎的な学力を身に付けさせることができるのではないか。 ③ 個人学習を意欲的に進めるシステムを開発すれば、基礎学力の定着が図れるのではないか。 ○ 研究の内容・方法 <ul style="list-style-type: none"> ① ○習熟度別学習を取り入れた授業展開の工夫 <ul style="list-style-type: none"> (1) 個に応じた指導を取り入れた一斉指導型の授業展開 (2) 習熟度別学習を組み込んだ一人の担任による授業展開
----------------	--

- (3) 習熟度別学習を取り入れたT Tの授業展開
 - 一人一人の学習状況を的確につかむことができる指導の工夫
 - (1) レディネステスト・ふりかえりテストの有効な活用
 - パソコンを活用した授業の中での発展的な学習の充実
 - ② ○朝の学習や読み聞かせによる読書の奨励
 - 「わくわくタイム」や朝学習におけるプリント学習を中心としたスキル学習の徹底
 - 1分間スピーチによる自己表現力の育成
 - 漢字テストの継続化
 - ③ ○個人学習で進める発展的・補充的学習の定着
 - 「わくわくタイム」でのパソコンの活用

- 平成16年度
- テーマ
 - 一人一人が学ぶ楽しさを知り、学ぶ力を身につけた児童の育成
 - ～ 算数科の学習を中心として ～
 - 研究の見通し
 - ① 習熟度別学習の定着により、個の学力に応じたきめの細かい指導をさらに進めていけば学力の向上がより高まっていくのではないかと。
 - ② 日常活動における読み・書き・計算の学習プログラムをさらに改善していけば、児童が自主的に進める学習習慣の確立が可能になるのではないかと。
 - ③ 個人学習を意欲的に進める学習環境の整備によって、基礎的な学力の定着と発展的な学力への到達が図れるのではないかと。
 - 研究の内容・方法
 - ① ○習熟度別学習の定着と評価の改善
 - 問題解決的学習を取り入れた児童自らが創造する授業づくり
 - 授業の中での補充的・発展的学習の有効な取り入れ方
 - ② ○「わくわくタイム」の内容の充実
 - コミュニケーション能力の育成のための日常的プログラムの作成
 - ③ ○補充的・発展的学習を取り入れたパソコンのプログラムの充実と活用方法

(3) 研究推進体制



Ⅲ 平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

- ・ 児童が学習を進めていく学習環境の整備がこの2年間で、ソフト、ハード面において着実に進んできた。計算プリントや授業に使う「ふりかえりプリント」などの手作り教材から、パソコン学習を積極的に進めるFD「わくわく君」の活用など、教員の多くの努力による学習教材の充実が児童の学力向上に大きな力となって、結果に結びついている。
- ・ 習熟度別学習の形態を取り入れることにより、一人一人が授業の中で「わかる」ことが実感できる学習の場面が設定でき、個の学力向上につなげることができた。
- ・ 「わくわくタイム」の実施は、今まで分からないままに学習を終えていた児童に復習することで学習内容の習得ができることを実感させることができた。また、さらにレベルアップをめざす児童にはより発展的な学習に触れさせることで、学習に対する高い意欲を生み出すことができた。

- ・ 学力調査の結果から、判断できることは次のとおりである。(要点のみ)
 - (1) 「数と計算」の領域では、4年生以上では全国平均のポイントより1.2ポイントから12ポイント高くなっている。計算のスキル学習が身につけてきていると考えられる。
 - (2) 算数の観点別評価においては、「数量や図形についての知識・理解」のポイントは、学年の全国平均より4年生以上は1.2ポイントから6.2ポイント上回っている。
- ・ 全校児童を対象とした校内独自の生活アンケートを3回実施したが、その結果からは、児童の家庭学習における取組が「ながら勉強」から短時間に集中的に行われるようになってきていることがわかった。さらに、1日のテレビの視聴時間も学年平均15分から60分程度減ってきており、生活リズムが安定し、家庭学習における集中度が増してきたことがわかった。

2. 今後の課題

平成15年12月2日(火)に「学力向上フロンティアスクール中間発表会」を行い、以下のような課題を見いだした。

- (1) 学習課題の提示の仕方の工夫
- (2) 習熟度別によるグループ編成を行う時のグループ分けの工夫
- (3) 習熟度別学習における練り合いの場の設定とグループ分けや発表の仕方の工夫
- (4) 一斉学習、習熟度別学習を有効に取り入れた単元構想表の作成
- (5) 個々の児童の習熟度を判断するレディネステストのあり方
- (6) レディネステストを授業に生かす学習内容の工夫
- (7) 学制的な考え方を身につけるための算数科の授業研究

また、補充的な学習、発展的な学習の課題のあり方や児童への与え方の工夫も今後研究を深めていかなければならない課題である。

IV 学力等把握のための学校としての取組

定期的な学力調査の実施(年1回)

V フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・ 研究会、説明会等の開催実績及び開催予定
 - 学力向上フロンティアスクール研究発表会
 - 日時 平成16年11月5日(金)
 - 場所 哲多町立本郷小学校
 - 対象 岡山県内小学校教員
- ・ HP作成等の工夫の実績及び今後の予定 (<http://www>・・・)
 - 平成16年 開設予定

◇ 次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T、Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無